

# ビジュアルエレベーター ～脈打つ都市へ～

従来のエレベーターは目的を持って乗る移動の手段としての

箱でしかなかったが、IoT が取り入れられたエレベーターは

全面がビジュアル化されその箱は目的を持たず乗る人が増え

皆が楽しみやリラクゼーション、コミュニケーションを求め乗る

箱へと変化を遂げた。さらに IoT は街全体に広がり、建物も

そのビジュアルを大きく変えていった。それに伴いおのずと

エスカレーターは外壁をつたうものへとになっていった。





## 『ビジュアルエレベーター ～脈打つ都市へ～』

### Back ground

快適と安全を突き詰め無機質な空間となったエレベーター。10年後、より快適さや利便性が突き詰められていくことが予想される。どんどん社会から無駄がそぎ落とされ私たちの生活は無機質になっていくだろう。だからこそちょっとした温かみのある空間やホッとできる空間、楽しめる空間が重要となりビジュアルエレベーターの開発へと進んでいった。

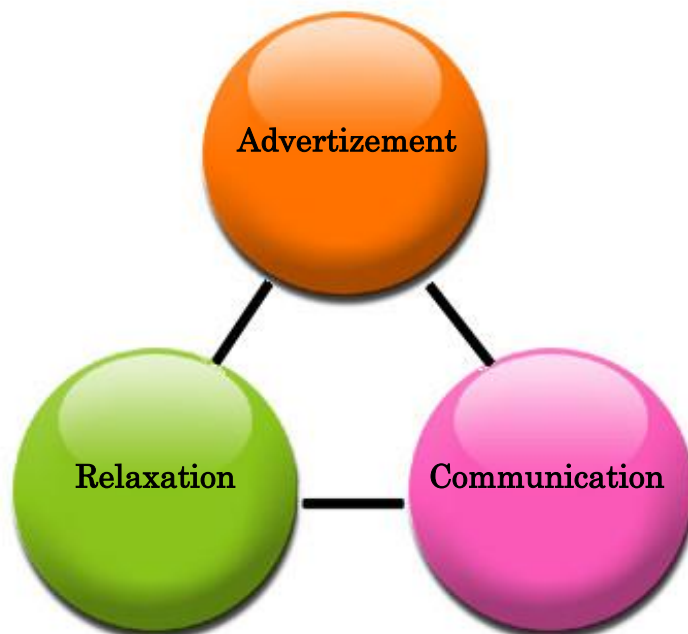
### ビジュアルエレベーターとは



近年、『曲がるモニター』『折りたためるモニター』が開発、実用化されてきています。

その技術を応用することでエレベーター内部の6面全面をモニター化する。

IoTの導入により映像媒体として、時間帯に合わせた客層への広告や多様なエンターテインメントを展開していくことを可能にし、視覚に訴える生きた情報を発信できるようになったエレベーターである。



アドバタイズメント、リラクゼーション、コミュニケーションの3本柱からなる。



エレベーターが繋がる！



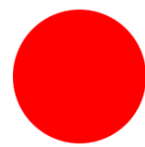
Hello!



In Japan



ビジュアルエレベーター同士をリアルタイム映像で繋ぎ温かみのある空間を実現する。



エレベーター内の全く異なる国、ビルでの繋がりや同じ会社、グループのビルでの繋がり等対人コミュニケーションが可能。



10階 レストラン



10階建て〇〇デパート

7階 雑貨



3階 婦人服



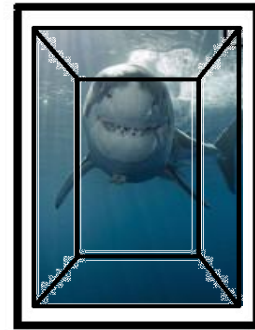
ビックデータにより地域、時間帯  
季節に合わせた広告展開





30階

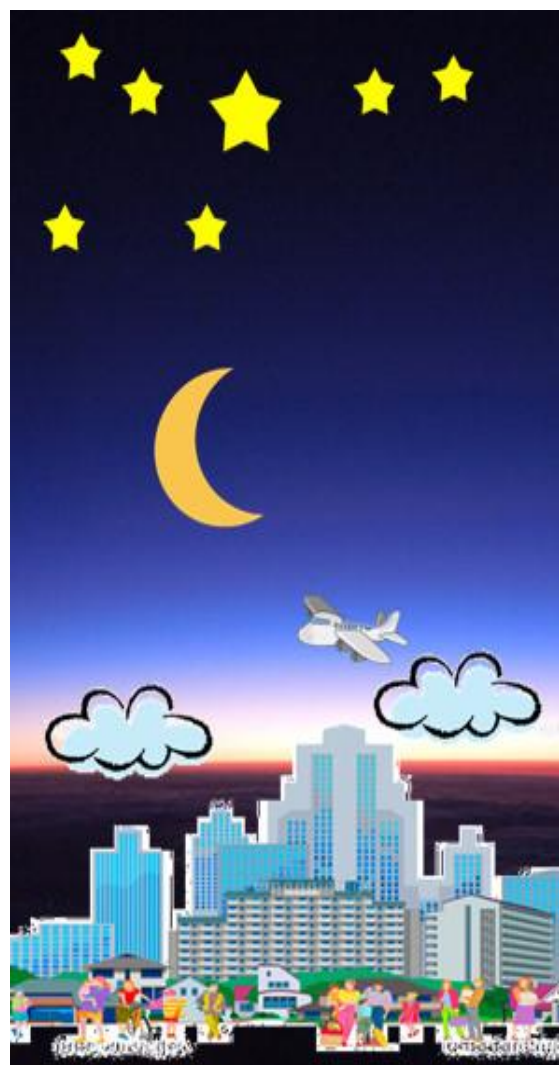
高低差を利用した癒しの展開



12階



2階



30階



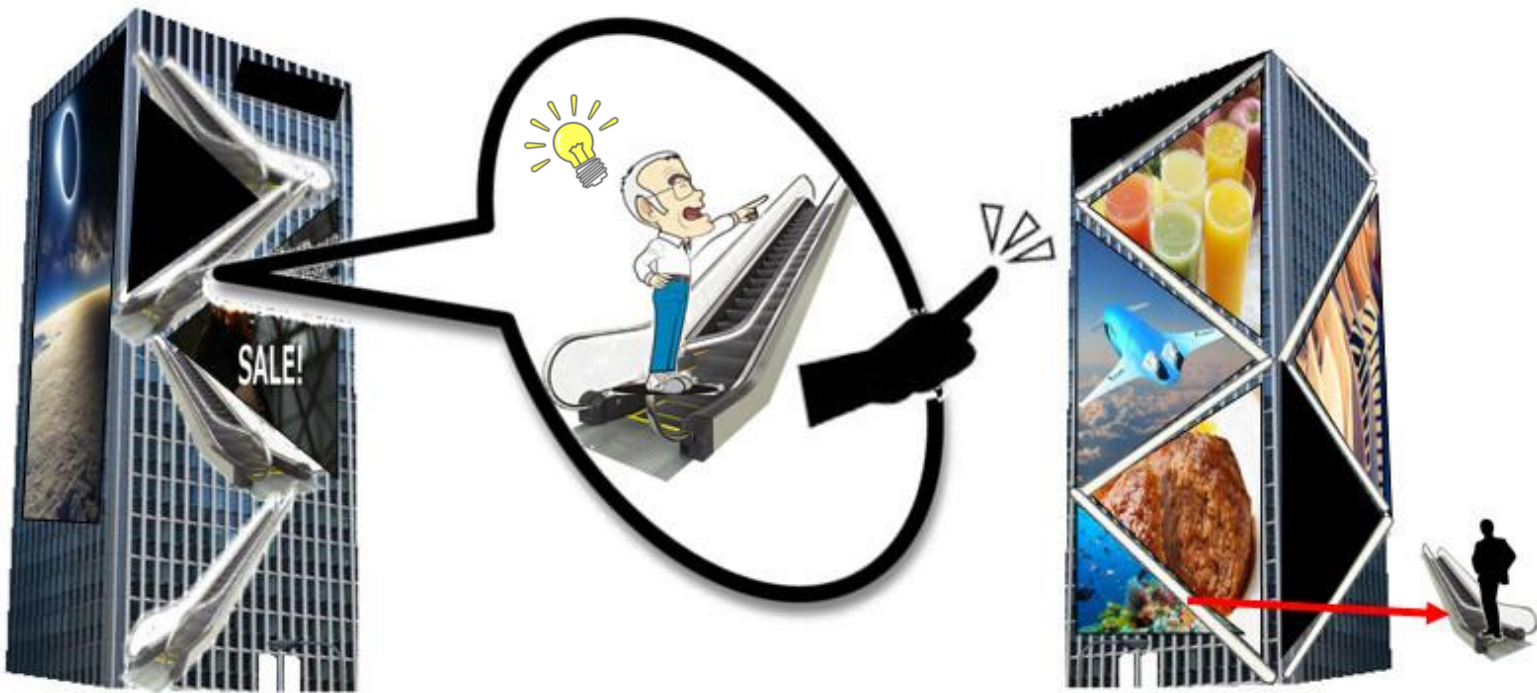
12階

2階

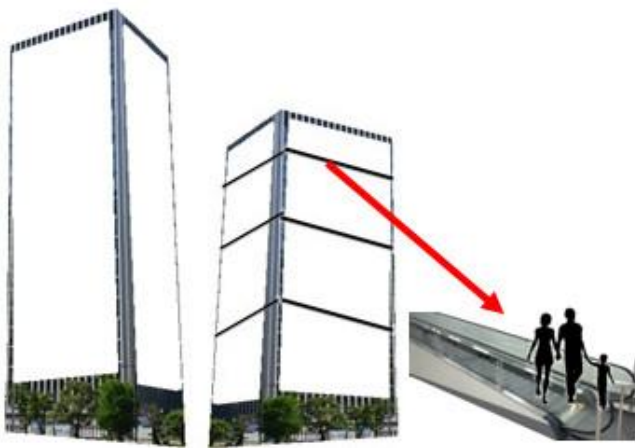




『IoT はエレベーターだけではなくビル全体、街をもビジュアル化していく』



ビル同士はお互いの広告やニュースといった様々な情報を見合うことで独立から共有へと姿を変えた。IoT はエレベーターだけではなく街全体に派生し、エスカレーターもまた大きくその役割を変えビル全体で発信する情報を得るために必然的に外壁をつたうものになった。単なる上下の移動手段ではなく見るためのものへとその用途は変化した、まさにエス壁—ターである。



外壁へのつたい方はビルによって異なりオートスロープ型でなだらかに上がっていくものもあれば全面がビジュアル化されたエスカレーターのないタイプもある。IoT のビルへの普及によって建築的なアプローチや街並みも大きく様変わりしていく。

街が一体となった映像展開も可能で一例としてサミット、オリンピックなどのイベントでは自然を基調とした新たな都市デザインを実現する。

このようにIoT の導入によりビルには人が集まり街自身も活性化される。街としての繋がり、共有は「脈打つ都市」となり人々を繋いでいく。